

さくらほっと NEWS

vol.64 令和6年秋号

名古屋市消防局との協定締結式を行いました

名市大病院では、ドクターカーの試行運用を行うため、8月1日(木)に名古屋市役所において協定締結式を行いました。協定では、消防局と名市大が連携体制を確立し、消防局の要請を受けて名市大病院のドクターカーが出動することが明記されています。これをもとに、9月9日(月)からは、重症患者の119番通報に対して、消防局の救急車とともに、名市大病院のドクターカーも出動し、処置や検査を迅速に開始することが可能となりました。今後とも皆様の応援をよろしくお願いいたします。



名古屋市立大学
youtube
チャンネルで
動画配信中！

「ANSURサージカルユニット」に関する記者会見を行いました

2024年4月23日に「ANSURサージカルユニットを用いた世界初の腹腔鏡下胆嚢摘出術」に関して記者会見を行いました。記念すべき第一例目は2024年4月16日に実施しました。ANSURサージカルユニットは朝日インテック株式会社が開発した新規手術ロボットであり、当院が東海地方で初めて導入いたしました。医師の働き方改革が注目される中、ANSURサージカルユニットは「助手の役割」に特化したロボットとして開発されました。3アーム(カメラ+2つの鉗子)があり、2人分の助手の仕事ができます。これまでは助手を兼ねていた上級医が、助手の仕事をすべてロボットに任せて、指導に専念することも可能です。若手教育において、手術の質を保ちながら教育効果を高めることが期待されています。今後、症例を重ねながら、前向き臨床試験の計画を進めていければと思っております。



記者会見の様子(左から龍口教授、間瀬病院長)

「名市大ブックス」新刊をご紹介します

市民公開講座を書籍化“名市大ブックス第17巻・第18巻”発売！！

名市大の医師や教員らが執筆している名市大ブックスシリーズ。大学の学術書や教科書とは一味違い、専門知識を図解やイラストを用いて分かりやすく解説。

第17巻「予防医療が紡ぐ 幸せな健康未来」

人生100年時代。健康を守る予防医療。大切な人の“小さな異変に気付く”“ちょっと生活習慣を見直す”きっかけを見つけてみませんか。

第18巻「データサイエンスが拓く未来」

近年注目度が増しているデータサイエンス。身の回りのあれもこれもデータサイエンスでできている!?「熟練の技をデータ化して後継」「つつい買いたくなるデザイン」など身近な例を用いて解説します。

お問い合わせは名市大病院ローソン、お近くの書店やAmazon等のECサイトにて。

詳細はこちら▶ <https://www.nagoya-cu.ac.jp/science/contribution/meishidaibooks/>



医療の質管理部メンバー

医療の質管理部をご紹介します 2

名古屋市消防局との協定締結式を行いました..... 4

「ANSURサージカルユニット」に関する記者会見を行いました..... 4

名市大病院のチカラ Vol.32 3

「名市大ブックス」新刊をご紹介します..... 4

Nagoya City University
RANKED 301-400

www.thewur.com

名古屋市立大学は、THEインパクトランキング2024において、総合ランキングで世界301-400位(6年連続国内公立大学1位)にランクインしました。

医療の質管理部をご紹介します

1. 医療の質管理部の新設

このたび、名古屋市立大学病院では、患者の皆さまが安心して医療を受けられるよう、「医療の質管理部門」を新たに設置しました。当院は、これまでも適切で安全な医療の提供に努めてまいりましたが、医療の質をさらに維持・向上させるための取り組みです。当院は医療の質を高めることが病院全体の成長に直結する重要な課題であると考えております。

2. 医療の質管理部の役割

では、新たに設置された医療の質管理部門が具体的にどのような役割を果たすのか、ご紹介いたします。皆さまも日々の生活の中で、改善すべきことを感じることもあると思います。しかし、いざ行動に移す際、どのようにすれば効果的なのか、本当に改善されているのか、といった点で戸惑うことがあるのではないのでしょうか。同様に、医療現場においても、医療者は日々の診療や患者さまへのサービスの中で、改善すべき課題を見つけ、最良の方法を模索しています。しかし、医療現場においては、これらの課題が患者さんの生命に直結する場合もあり、適切な対応が求められます。ある課題に対して、どのように改善を進めるべきか、その結果がどのように現れたのか、さらにどうすれば改善を続けられるかを、計画的に進めていくことが重要です。少し難しく言えば、明確な目標を設定し、改善策を実行し、その結果を数値化して比較・評価し、次の行動目標を立てるというプロセスになります。このプロセスを最後までしっかりと遂行できるよう支援することが、医療の質管理部門の設置目的です。

3. 今後の展望

医療は日々進歩し、新しい手術方法や薬物治療が次々に導入されます。その際、効果や安全性を評価し、適切な導入や管理を行うことが求められます。また、高齢化が進む現代において、病気が複雑化し、取り組むべき医療課題が増えています。このような状況で、質の高い医療を提供するための取り組みは、ますます重要になっています。私たち医療の質管理部門は、名古屋市立大学病院が常に最良の医療を提供し続けられるよう支援してまいります。皆さまに当院のこの取り組みをご理解いただき、ますます信頼をいただけるよう、さらに努力を重ねてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

医療の質をさらに維持・向上させるためのPDCAサイクル



令和5年度医療の質指標 掲載先

「病院ホームページ」→「当院について」→「当院の概要」→「医療の質指標」
https://w3hosp.med.nagoya-cu.ac.jp/about/outline/qi_2023/

名市大病院のチカラ Vol.32

形成外科

患者さんのQOLを向上させる治療を行っています

形成外科は身体の表面全般を取り扱う診療科です。身体機能の改善だけでなく、いわゆる「見た目(外観)」を改善することで、患者さんのQOLを向上させる治療を行うことが特徴です。主な対象疾患としては、先天異常(生まれつきの体表面の異常)では埋没耳、多指症、合指症、漏斗胸など、腫瘍(皮膚と皮下の腫瘍)では母斑、血管腫など、創傷(きずやけが)では顔面骨折、外傷後瘢痕(傷あと)、難治性潰瘍などがあります。その他、腫瘍切除後の再建(頭頸部癌や乳癌を取った後に形を整えること)、培養表皮移植による白斑などの治療、眼瞼下垂に対する手術なども行っています。

また、リンパ浮腫に対する治療も行っています。主に乳癌や婦人科のがん手術後に生じる手足のむくみに対して、資格を持った看護師と協力して、圧迫療法、マッサージ、運動療法などの

治療を行っています。保存的治療に加えて、手術用顕微鏡下で静脈とリンパ管にバイパスを作成するリンパ管静脈吻合術も行っています。

治療によって可能な限り正常で美しい状態に回復させることで、患者さんの気持ちが前向きになり、その後の生活がより有意義なものになるよう今後も尽力していきます。



リンパ浮腫診療の様子

病理診断部

信頼性の高い病理診断に努めています

病理診断部は病棟・中央診療棟4階に位置し、患者さんから採取された組織、細胞などの検体を顕微鏡で観察して病変の最終診断(病理診断)を行う部門です。病理医及び臨床検査技師が密に連携して検体処理、標本作成、診断業務を遂行しており、年間約12,000件の組織検体、約7,000件の細胞検体の診断を行っています。精度の高い病理診断に必要な不可欠な免疫染色は年間12,000枚で、現在、2台の自動免疫染色装置がフル稼働しています。今年度中に染色機器の更新及び新規導入を進め、自動免疫染色装置4台体制に増強される予定です。この増強体制により、今まで外注検査として実施してきたコンパニオン診断(分子標的薬の効果予測判定)の一部が院内実施可能になり、診断結果報告の迅速化に繋がるものと期待しています。また、2024年1月からは病院機能評価の評価項目に準じ、電子カルテに送信さ

れたすべての病理診断報告書が各診療科において既読されているかの確認を毎月実施しております。病理診断報告書の確認忘れによるがんなどの重大疾患の見落とし、治療の遅れなどを防止し、安心・安全な医療体制の構築に尽力しています。

今後も病理診断部は一丸となって信頼性の高い病理診断を実施できるように努めてまいりますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。



病理診断部の医師と臨床検査技師